

破連根春日 若佑

紙相撲新聞

第164回本場所
初日～三日目

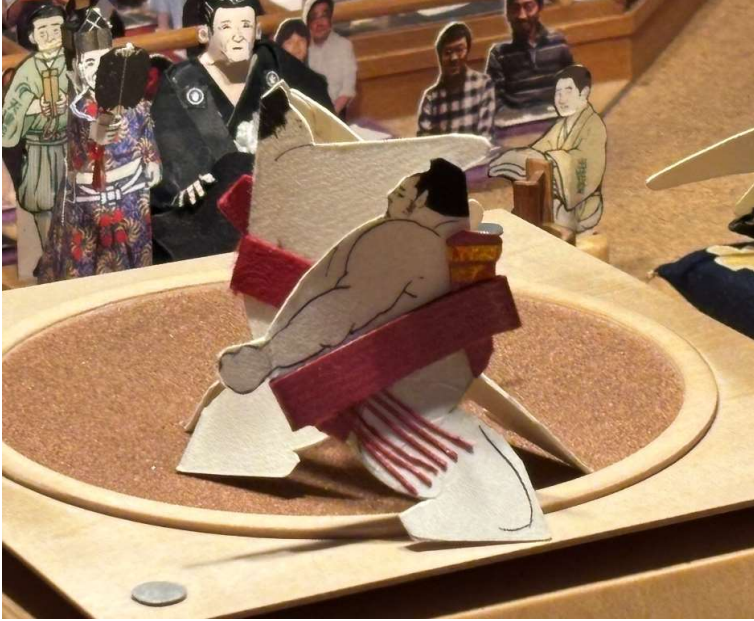
編集・発行
日本紙相撲協会

千代鈴、序盤の2敗は初土俵以来初 上位3連勝は春ノ翔、大神楽、鬼ヶ嶽

【第百六十四回本場所初日～三日目】

令和7年となり、今年初めての場所となる第164回本場所初日が1月18日に開催された。

先場所、日本紙相撲協会史上初の4横綱の番付となった本場所は、横綱千代鈴、横綱若ノ嶋、大関西神門の三つ巴の優勝決定戦となり、大いに盛り上がった。



↑自己最高位の伏兵若佑、二日目の西神門に続き、横綱千代鈴に対しても正面に押し込まれながらも回り込んでの2日連続の殊勲の星をあげた。



↑二日目、綱取りが掛かる大事な場所だが、油断したのか、若佑の喉輪一閃に倒された。

がった場所となった。ただ、新横綱で期待された大神楽が新横綱としての心労が災いし途中休場となったのが残念であった。

今場所は大神楽も復調し、初日に4横綱が元気な姿を見せて土俵入りを披露した。

かつては1横綱の時代もあり、それから西からと次々と入れ替わって土俵入り披露する様はまさに豪華絢爛という言葉がぴったりな感じが深いひとときだった。

今場所の注目は何と言っても先場所の大関西神門の横綱挑戦だろう。優勝の先場所は千代鈴と若ノ嶋の横綱対決かと思われたが、両横綱を決定戦で破つての優勝は価値ある優勝で、西神門の実力を知らしめる決定戦となった。

今場所優勝して連続優勝となれば、間違いなく横綱に推挙されることだろう。そうなれば空前絶後の5横綱時代の到来となる。協会創始者の徳川翁も4横綱さえ予想だにできなかっただろうが、果たして5横綱誕生となるのか。

しかし4人も横綱がいて容易く西神門に連続優勝させるわけにはいかないだろう。4横綱が意地を見せて西神門の壁となることできるかにも注目だ。

そうした中で迎えた本場所は三日目まで終え、3連勝としたのは横綱春ノ翔、横綱大神楽、関脇鬼ヶ嶽、平幕の勝ノ川、宇治家、越境山の6力士。連覇を目指す西神門は二日目に若佑に敗れて2勝1敗の出だしとなった。

また、初日には先場所優勝を争った千代鈴が小結綱乃花に、若ノ嶋は小結夢ノ花に敗れる波乱の幕開けとなった。千代鈴の初日の黒星は初土俵以来初めてのことで、さらに千代鈴は三日目に平幕の若佑にも敗れて1勝2敗という苦しいスタートとなった。

注目は大関西神門の初日に大関西脇に力強い相撲を押し倒し、強えな声があがった。頭上から強達りま

など輪で押し倒された。予想外の結果に親方衆からも「ええ！」という大きな声が上がった。



夢ノ花●(寄り切り)○西神門

門だった。心配された西神門だったが、三日目は危なげなく小結夢ノ花を寄り切った。



西神門○(押し倒し)●四季嶋

横綱千代鈴は場所前に行われた稽古総見では全幕内力士を相手に3勝1敗と圧倒的な強さを見せ、今場所も優勝本命と思われたが、初日は小結に返り咲いた綱乃花に珍しくのど異的な粘り腰で逆の押し出されて黒星発進となった。



千代鈴●(押し倒し)○綱乃花



千代鈴○(寄り切り)●夢ノ花

連敗は避けなかった。二日目の小結夢ノ花は相撲を見せたい万全の方を安心して春日親目を喫した。

調子を取り戻せるかに注目したい。

初土俵以来、1勝2敗のスタートは初めて

先場所、初日から8連勝し優勝争いを演じた若ノ嶋は初日の対戦相手と2度目の対戦。



若ノ嶋●(押し倒し)○夢ノ花